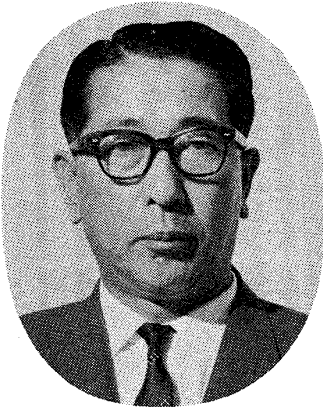


随 想

会長就任にあたって

武 田 喜 三*



このたび諸先輩の皆様、理事各位の御推挙によりまして、栄ある日本鉄鋼協会の会長に選任されましたことは、まことに光栄の至りと存じますとともにその責務の重大さを痛感いたしております。もとより浅学非才の私ではありますが、誠心誠意努力いたしまして、本協会の発展に寄与したいと念じている次第であります。

日本鉄鋼協会は、実に 65 年の長い歴史を有しておりますが、その間本協会が鉄鋼のみならず、日本の産業界全体の進歩・発展に果たした功績は、まことにはかり知れないものがあります。

御承知のとおり、今日、本協会は極めて広範囲にわたる活動を続けております。

会誌「鉄と鋼」は漸新な研究・論文・技術資料を提供するとともに、啓蒙的な解説・随想記事等により会員への十分なサービス機能を果たしております。また、国際誌 Transactions ISIJ は海外において高い評価を受けております。

毎年春秋開催の講演大会はますます盛況となり、日本金属学会と共に鉄鋼製造技術の進歩発展に大きく貢献いたしております。

また、共同研究会・標準化委員会等各種研究会・委員会は広く鉄鋼全般にわたって製造技術の諸問題の究明・改善に活発な活動を展開しており、業界の隆盛に対する功績は絶大なものがあります。

更に、鉄鋼基礎共同研究会・特定基礎研究会等の産学共同の研究活動も活発に運営されております。

また一方、国際交流の面に関しましては年を追って盛んとなり、本年の国際会議に例をとりましても日本・ベネズエラシンポジウム(5月)、日・豪シンポジウム(7月)、圧延国際会議(9月)、日・独セミナー(11月)と計画され、先進欧米諸国のみならず、広く世界各国との交流がなされており、日本鉄鋼協会の果たす役割はますます重要な度を加えて来るものと予想されます。

さて、御存知のごとく、日本を取り巻く経済環境は厳しさを増す一方であり、更に昨今のエネルギー・原材料等の資源問題は、特に日本の産業界にますます重圧を加えております。

鉄鋼業界におきましても、なお一層の価格低減・品質向上に努めることはもちろんであります。革新的な製造技術の開拓に向けての努力が、強く要請される次第であります。

このような困難な時代に当たり、日本鉄鋼協会の果たすべき役割は極めて重要かつ多岐にわたるものと考えます。

すなわち、業界内における切磋琢磨・相互啓発のみならず、大学・中立研究機関・他産業との協力、更には国際的視野における協調等、従来以上の活発な活動が必要とされます。

終わりにあたりまして、今後の日本鉄鋼協会の発展に全力を傾注する覚悟でおりますので、是非とも会員各位の御協力と御指導のほどを御願いたします。

* 本会会長、大同特殊鋼(株)取締役社長